
腎移植に関する透析施設看護師への 教育支援を目的とした取り組み

小田嶋麻実、高橋 響、伊藤理乃、伊藤真弓、
齋藤 満*、佐藤 滋**、羽瀨友則*
秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階
秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座*
秋田大学医学部附属病院 腎疾患先端医療センター**

<緒言>

移植患者は移植待機中、様々な心配や不安を抱えており、心理的援助を充実させる事は非常に重要である。日頃移植待機患者と接点の多い透析施設の看護師が、腎移植希望患者の現状を把握し情報提供の機会を設けることは、腎移植に対する受容を変化させる援助につながったと志田らは報告している¹⁾。当院は県内で唯一の腎移植施設であり、年間約20例の生体腎移植を施行している。腎移植を希望する患者の多くは、他の透析施設で維持透析を経て腎移植に至る場合が多いが、昨年度当院で行った研究で、県内の透析施設看護師が、維持透析患者への腎移植に関する情報提供や指導の必要性を感じているものの、腎移植に対する知識を獲得できる環境が整っていないことが明らかとなった。そこで、透析施設看護師が腎移植に関する知識を獲得できる環境の充実が必要であると考え、透析施設看護師を対象とした移植に関する勉強会を実施し、その効果を調査した。

<対象と方法>

1. 対象：本研究参加に承諾が得られた秋田県内の透析施設に勤務する看護師30名（13施設）
2. 調査方法：秋田県内の40の透析施設へ勉強会開催の案内を行い、秋田市内で約3時間の勉強会を行った。内容は、医師から透析医療・移植の現状、献腎移植・生体腎移植の現状と実際について、看護師から移植患者の入院から退院までの流れと退院指導について講義を行い、最後に質疑応答を行った。勉強会の前後で独自に作成した質問紙に回答してもらい回収した。「今回の勉強会で、特にどんな内容を知りたいですか」「勉強会で分かったことはありますか」「勉強会で、もっと詳しく聞きたかったことはありますか」「勉強会で分かりにくかったことはありますか」の質問について、それぞれ「献腎移植」「生体腎移植」「移植の成績・移植腎の予後」「手術までの流れ」「移植手術の方法」「手術後の経過」「術後合併症」「免疫抑制剤」「移植に関わる検査」「退院後の生活」「その他」「特になし」の12個の項目から3個まで選択してもらい、その理由や詳しい内容を自由記載とした。
3. 分析方法：単純集計
4. 倫理的配慮：対象者には、研究目的、方法、調査の協力は自由意志に基づくものであり、いつ中止・撤回しても構わないこと、研究協力を断っても不利益が生じないことを保障した。また、

データは無記名であり個人が特定される事がないこと、データの管理、破棄について文書で説明した。

<結果>

1. 対象者の属性

勉強会に参加した透析施設看護師30名中22名から回答が得られた（回答率73%）。全員が女性であり、年代は40歳代が半数であった。看護師の経験年数は20～30年が約4割、5～10年、30年以上がそれぞれ約2割であった。透析施設での経験年数は、5～10年が6割程度と最も多く、1～5年、5～10年がそれぞれ約2割であった。

2. アンケートの結果

【勉強会前アンケート】

「勉強会で、特にどんな内容を知りたいですか」という質問に関する結果を図1に示す。「退院後の生活」「手術までの流れ」「生体腎移植」「移植の成績・移植腎の予後」がそれぞれ約2割であった。具体的な内容としては、「移植前の検査はどのようなものがあり、どのくらいの期間が必要なのか」「移植前後の流れ、クリニカルパスについて」「退院後の注意点、定期検査、制限されることはあるのか」「ドナーの検査に苦痛は伴うのか、ドナーのデメリットはあるのか」「移植を希望したらどんな手続きが必要か」「移植外来受診までの流れについて」「秋田県内の献腎・生体腎移植の現状、移植後の予後、全国との比較について」「移植までの外来通院の回数について」「移植決定まで長期となるため、その間の患者への対応の仕方について」という意見があった。

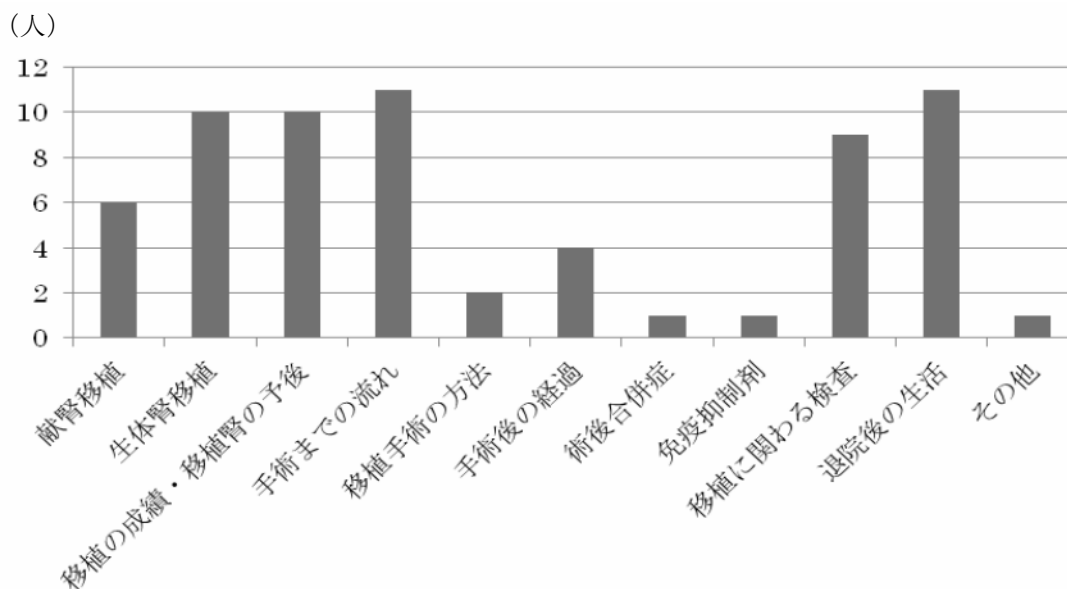


図1 勉強会で特にどんな内容を知りたいか

【勉強会后アンケート】

- 1) 「開催時期・時間は適当でしたか」という質問に関しては、時期・時間ともに「適当」が約9割であった。具体的な理由としては、「子供がいるため朝早く出て来られず、帰りも遅くなるのは負担になるため、今回の開催時間は丁度良い」「日曜は休めるので良かった」「時間も講演とセミナー1時間くらいで適当だと思う」「遠方から参加の人も多いので開始時間が適当だった」「日曜の午前がいいと思う」という意見があった。「不適当」と回答した者の意見としては「東北腎不全研究会の次週だと辛い」というものがあった。
- 2) 「勉強会で分かったことはありますか」という質問に関する結果を図2に示す。「手術までの流れ」が約2割であった。その理由としては、「手術前のスケジュールやパンフレットを参考に出来て良かった、貰えるともっと良かった」「献腎移植レシピエントの選択基準、登録数、登録費用がわかった」「生体腎移植ドナーのリスクが分かった」「献腎移植・生体腎移植の条件等、手術までの流れがよく分かった」「具体的な流れが分かったので、患者さんに説明することが出来る」「腎移植での具体的な医療費や、ドナー・レシピエントの流れを知ることができた」「とてもわかりやすく学ぶことが出来た。」「今まであまり身近ではなかったが、移植について全体的にわかった。今後積極的に移植について情報提供していきたいと思う」という意見があった。

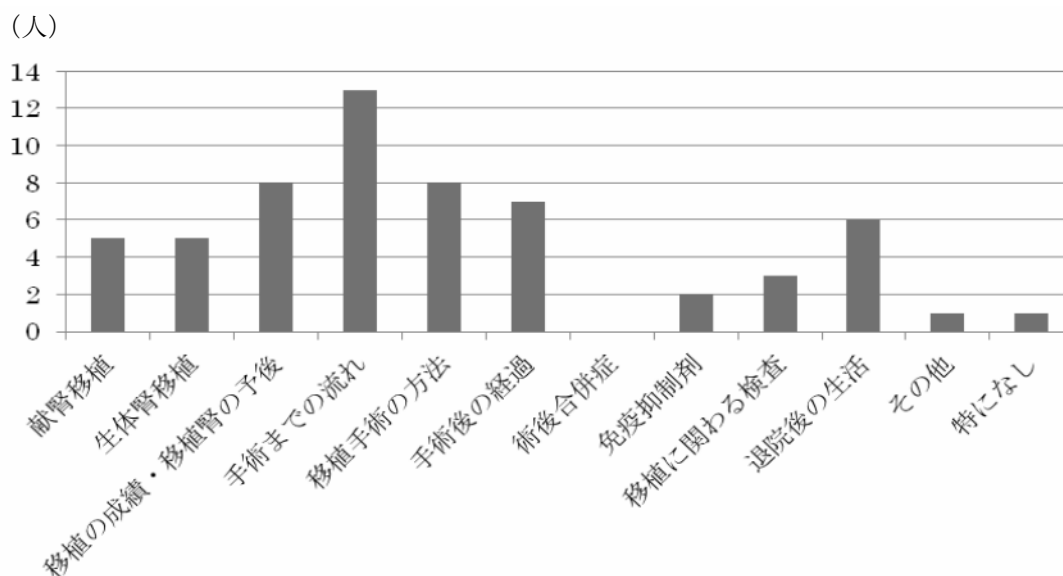


図2 勉強会で分かったこと

- 3) 「勉強会で分かりにくかったことはありますか」という質問に関する結果を図3に示す。「特になし」が約3割、「移植の成績・移植腎の予後」「免疫抑制剤」「退院後の生活」がそれぞれ約1割であった。理由としては、「ドナーの予後や医療費について知りたい」「生体腎移植のドナーについて知りたい」「免疫抑制剤の内服方法や減量の例などがあればわかりやすかった」「退院後尿量の計測を続けてもらう時、どのような教育・指導を行っているのか」「聞きなれない薬剤であるため、もう少し薬についての勉強をしたい」という意見があった。

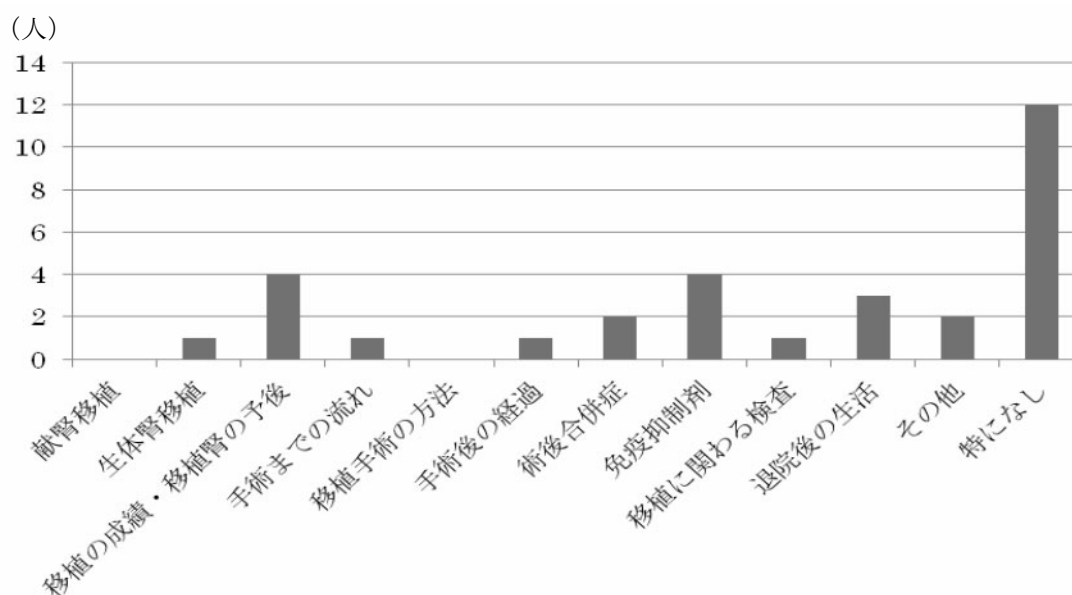


図3 勉強会で分かりにくかったこと

4) 「勉強会で、もっと詳しく聞きたかったことはありますか」という質問に関する結果を図4に示す。「退院後の生活」が約2割、「手術までの流れ」「手術後の経過」「移植にかかわる検査」がそれぞれ約1割であった。理由としては、「生体腎移植のドナーとレシピエントの実際の症例や経過が聞きたい」「臓器移植までの流れ」「免疫抑制剤の副作用の例」「免疫抑制剤、退院後の生活についてもっと詳しく知りたい」「移植の日時が決定後、クリニックで透析を行う上で患者さんに対して注意すること（日常生活・透析中）」「移植を決めて入院するまでの外来通院の事も教えて欲しかった」という意見があった。

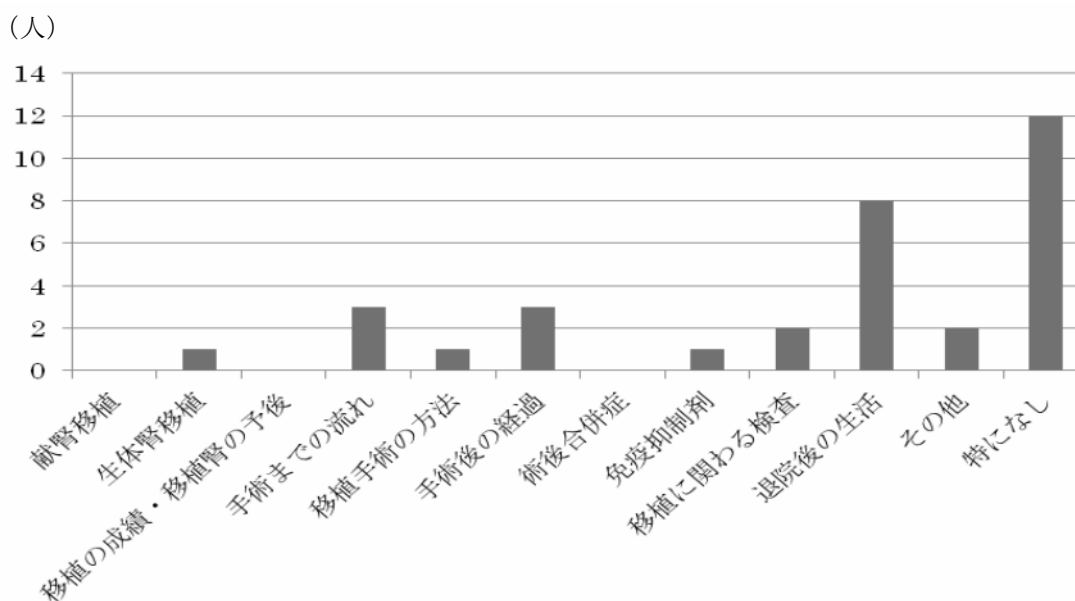


図4 勉強会でもっと詳しく聞きたかったこと

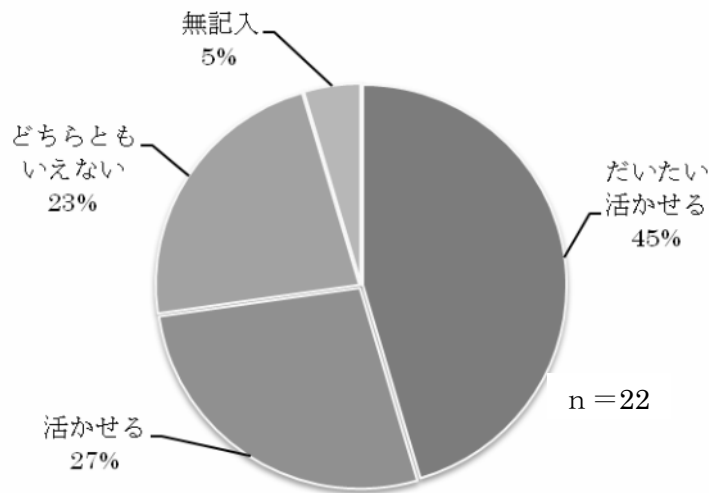


図5 勉強会を今後患者さんへの情報提供に活かすことができるか

- 5) 「今回の勉強会を、今後患者さんへの情報提供に活かすことができますか」という質問に関する結果を図5に示す。「活かせる」と「だいたい活かせる」とで約7割であった。理由としては、「今まで知らなかった情報を知ったことにより質問に答えられると思う」「透析患者から腎移植の質問をされることはほぼありませんでしたが、情報提供をすることで移植を考える患者もいるかもしれない」「今まで移植の事を医師に聞けず、看護師の私たちに「費用はいくらかかるか?」「ドナーは誰でもいいのか?」など聞いてきた患者がいても、何一つ知識がなく答えられなかったので、今後は少しは活かすことが出来そう」「移植までの流れを知ることが出来たので、今後患者に聞かれても説明できそうなので良かった」「移植の予後やQOLが向上することなどは話していきたいと思う」「患者さんに聞かれたときに、流れについて説明できそう」という意見がある一方、「なかなか腎移植希望という患者は少ないから話しにくい。医師から腎移植について説明されることが少ない。」「他患者さんへの配慮・遠慮からか透析室内では移植についてあまり話することが出来ないから、移植について患者に話すのは難しい」という意見もあった。
- 6) 「勉強会の感想・意見がありましたらお書きください」という質問に関しては、「今後も秋田大学病院の移植について定期的に勉強会をしてほしい」「とても有意義な時間を過ごすことが出来た」「とても分かりやすく、時間的にも良かった」「今後も新しい情報を得るためにも継続的に開催してほしい」「またやってほしい」「とても有意義な会だった」「話易い雰囲気良かった、大変解りやすい講義だった」「生体腎移植は自己管理がその後の生活を左右することは分かっていたが、実際に講義を聞いて納得できた」という意見があった。

<考察>

「今回の勉強会を、今後患者さんへの情報提供に活かすことができますか。」という質問に関して「活かせる」と「だいたい活かせる」とで約7割であったことから、移植に関する勉強会は透析施設看護師への教育支援として有効であったといえる。移植前の患者に対し、移植手術前後に適切な情報提供を行うことにより、腎移植後の生活を想像しやすく、自己管理の理解や意欲につながる

と小坂らは述べている²⁾。移植待機患者と接する機会の多い透析施設看護師が、移植に関する情報提供を行うことで、患者が移植後の生活の変化に対して心構えができると考えられる。また「情報提供をすることで移植を考える患者もいるかもしれない」「移植の予後やQOLが向上することなどは話していきたいと思う」という意見もあったことから、透析施設看護師が腎移植について良い印象を持っており、移植のメリットを情報提供することで移植希望者が増える可能性も考えられる。透析施設看護師からの意見では、今後も定期的に勉強会を望んでいる意見が多く、また免疫抑制剤について、社会保険制度について等を知りたいという意見もあり、今後は薬剤師や医療ソーシャルワーカー、移植コーディネーター等の他職種も含めた勉強会が必要であると考えられる。

今回勉強会は1回目であり、参加した透析施設看護師も13施設、30名と少ない。より多くの看護師が参加できるよう、定期的に勉強会を開催する必要がある。また施設により腎移植に関する情報提供についての体制に差があると考えられるため、実際に移植に関する情報提供ができるかどうか検討していくことが今後の課題である。

<結語>

1. 移植に関する勉強会は、透析施設看護師への教育支援として有効である。
2. 透析施設看護師が移植前から情報提供を行うことで、患者が移植の心構えができる。
3. 移植のメリットを情報提供することで、移植希望者が増える可能性がある。
4. 今後は薬剤師や医療ソーシャルワーカー、移植コーディネーター等の多職種も含めた勉強会が必要である。

文 献

- 1) 志田梨江、本間亜矢、田辺優子、他：当院の腎移植希望者の現状と血液透析施設の看護婦の役割、日本透析医学会雑誌 29：685、1996.
- 2) 小坂志保、田中美樹、野口文乃、他：移植看護・患者支援の地域内共通化の試みーパンフレット作成に向けてー、腎不全外科 12：54-56、2012.